

様式第1号

会 議 録

会議の名称		令和4年度第1回自転車のまちつくば推進委員会		
開催日時		令和4年(2022年)10月24日 開会 13:00 閉会 17:00		
開催場所		つくば市役所 本庁舎2階 防災会議室2		
事務局(担当課)		都市計画部総合交通政策課サイクルコミュニティ推進室		
出席者	委員	井上委員、古平委員、中川委員、藤澤委員、松田委員、松橋副委員長、渡委員長、永田委員、板倉代理、野澤委員、大里委員、富田委員、谷内委員		
	その他	—		
	事務局	高橋室長、河野主任、小川主任		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0名
非公開の場合はその理由				
議題		・「(仮称)つくば市自転車活用推進計画に位置付ける施策の方向性について」		
会議録署名人		—	確定年月日	令和 年 月 日
会議次第	1 開会 2 委員長挨拶 3 議事 「(仮称)つくば市自転車活用推進計画に位置付ける施策の方向性について」 4 その他 5 閉会			
<p><委員長挨拶></p> <p>昨年度から委員会の中で実走を試みており、他にはない実体験をしながら課題を見つけていく、その中でまちづくり推進のための意見を委員から貰っていくという形をとっている。今年度もその形式を継続したいと思う。今日も(天候の関係上)実走がどうなるかわからないが、臨機応変に対応していく形で委員会を進めていきたい。</p> <p>今日はまず事務局から説明し、それに対して御意見をいただきたいと思う。</p> <p><審議内容>○：委員 ●：事務局</p> <p>・(仮称)つくば市自転車活用推進計画に位置付ける施策の方向性について</p> <p>●事務局：(仮称)つくば市自転車活用推進計画に位置付ける施策の方向性について説明</p>				

様式第1号

○委員：資料1－3の中で、自転車通勤と自動車通勤の割合について目標値としてグラフを示しているが、根拠はあるか。

●事務局：あえて具体的な数値は載せていない。自転車の利用者と自動車の利用者の差が縮まっていけば、より自転車利用のための環境整備がしやすくなるだろうという概念図である。

○委員：資料1－3で主にソフト事業を中心にしたいというが、以前の実走の際に地面にペンキを塗ったりして通行しやすくしてはという意見も出たかと思う。それはソフト事業としてみていいのではないか。

あとは標識を立てるとか、一方通行にするとか、自動車の走行速度を30キロに規制するとか、自転車を追い越せない速度に規制してやれば自転車のほうが早く目的地に着くようになるので、利用が促進される。こういったことはやるかやらないかという部分で、誰もやりたくはないと思うが、本当に目標を達成したいのであればそういったことも視野に入れる必要がある。少なくとも場所を選んで実施するなど、必要だと思うが、こういったこともソフト事業として考えていいのか。

●事務局：ソフト事業と分かりやすくまとめているが、今おっしゃられたような道路にペイントするといったことはあまりお金がかからないが、一方で予算がかかってしまう対策もあり、必要であれば早急に進めなければならない。今回、率先してソフト面を考えてほしいといったが、当然ハード面でも費用対効果の高いものは優先的に行っていくと思うので、ソフト面という点に捉われず、多くの意見を出していただきたい。

○委員：民間の事業者がキッチンカー等を使ってサイクリングコースの傍らで、食べ物やドリンクを提供するといった取組を支援するのはソフト事業といえるか。

●事務局：今の話は資料1－2の嗜好的な利用に資する部分かと思う。比較的観光の要素が強くなってしまいが、自転車施策にとって必要な要素だと思うので、市として検討する必要がある。実際、茨城県ではつくば霞ヶ浦りんりんロード沿いで同様の事業を行っている。

○委員：資料1-2において5つの要素が挙げられているが、この観点が連動していくことが重要だと思うし、委員として市の各部長がそろっていることは非常に大きなことだと考える。自転車そのものだけでなく、自転車で行く行先にR8が含まれていることは重要なことであり、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画でまさに議論している部分。ほかにも農業振興などにも関わってくるし、市を挙げて事業を進める、様々な計画が連関していくことが意識できればと思った。

○委員：ほかに意見がなければ、ここで暫時休憩とする。

<休憩>

<審議内容>○：委員 ●：事務局

○委員：再開する。市内を実走しての所感を伺いたい。

○委員：今回の上郷のコースは、前回と比べ、矢羽根等は少ないが、自転車で走るには比較的セーフティな道と感じた。個人的な意見だが、車社会の中で自転車利用を推進するために、ポイント毎に防犯カメラを設置してはと考えた。事故が起きる前・起きてからを考えると、ドラレコの重要性を鑑みても、カメラの設置は検討すべきだと感じた。特に信号のない交差点・丁字路、自販機の中にカメラを入れるなど、アイデアを出し合って、安全に通れる、何か起きた時に速やかに対応できる環境づくりを進めてほしい。

○委員：普段ほとんど自転車に乗らず、約20キロの道を走り切れるか不安だったが、気持ちよく走ることができた。気付いた点としては、車道を走っていると、車が追い抜くときに邪魔そうにしているのを感じたため、自転車が車道を走るのは危険だと思った箇所が何か所があった。歩道のがたつきはどこの地区でも課題だと考えるが、子どもたちの通学路に関わる場所は修繕していただけると有難い。

○委員：今日走った上郷のコースは、嗜好的な利用を意識したものだと思うが、資料を見れば写真や画像で風景・名所等が載っていたり、筑波

山がきれいに見えるポイントがあったりとか、案内してもらえば分かるが、初めて来た人には伝わりにくい。街歩きマップのようなものがあれば、経路の中で何があるか事前に分かるので良いと思う。上郷地区ではスタンプラリーののぼりを見た。そういったイベントと連携させていければ面白いと感じた。すべてを市でやるのは難しいので、地元の人と連携してマップを書き込んでもらえるようにすれば、地元も盛り上がると思うし、初めて来た人にも優しい。ハードの面では、タイルインターロッキングを使った道路はガタガタして自転車には向かないと感じた。

●事務局：何点か補足させてもらいたい。嗜好的なルートとおっしゃられたが、我々としては日常的な利用も見据えた形で設定した。例えば上郷地区の方が安全に学園地区に自転車で向かうとすれば、今回のルートは有用であると考えます。嗜好的な面ばかりではなく、両面を考えたルートであると申し上げたい。景観マップ的なものとしては、お手元につくば市景観ルートマップをお配りしている。

○委員：これは都市マスタープランを作成した際に、景観100とってつくば市内の景観について写真で示したものを作りましたが、それだけでなく、半日単位・1日単位で回れるルートを、ということで作成した。景観計画を策定して10年目に行ったイベントの際、ルートマップを作成しては、という意見を受けて出来たもの。令和元年に発行し、観光にも役立つものだと考えるが、周知不足であまり知られていない。ただ、選定したルートはつくば市の景観を見て回るには非常に良いものだと考える。今日通った中でも何か所かルートを通っている。今後の参考にしてもらえれば。

●事務局：つくば市が組織的に自転車施策に注力するようになったのは令和2年から。それ以前から徒歩や自動車も含めた周遊を考えた素晴らしいマップが作成されているので、今後そういった既存のマップ等と自転車を連動させていきたい。

○委員：今日走った上郷のルートは平坦で走りやすかった。一方で、歩道中心で走ったので、それはどうなのかな、と感じた。今回は歩行者があまりいなかったのが大丈夫だったが、ところどころに植栽落ちていたり、枝葉が伸びていたり、注意しないと危険だと感じた。あと、

休憩した川口公園のサイクルスタンドが立派で驚いた。川口公園は小貝川のサイクリングロードからほど近いものの、走っている人はあまり場所を知らない。立ち寄れるように案内があればよいかと思った。

○委員：走りながらどうすれば自転車利用率が上がるかを考えていたが、自転車で走るメリットを分かりやすくするのがよいかと思った。例えば、これだけ家計や健康に良いということを「見える化」すれば利用率が上がるのではと思う。自転車は一度乗れば良いものだと分かるが、自動車に慣れてしまったら億劫になってしまう。例えば、新しく自転車通勤を始める人に対し、自転車走行において危険な箇所を意見してもらったらポイントを付与するなど、インセンティブを検討し、とにかく一度自転車で走ってもらう取組を行ってはどうかと考えた。

●事務局：まず健康についてだが、明確なエビデンスがなく、全国の自治体で苦慮しているところである。シマノという自転車メーカーで持っているアンケートベースのデータなら示すことはできる。家計についてはガソリン代等を計算すれば見える化はできるかと思う。

○委員：今のところつくば市ではそのような取組は行われていないのか。

●事務局：環境面という点で自転車に乗ればどれだけCO₂が減るかといったデータは出しているが、健康・家計という点では出していない。健康・家計はより個人に対するメリットが大きいかと思うので、情報を示していければと思う。

○委員：都会的な景色から小貝川の田園的な景色まで楽しめて、もっと天気良かったら鼻歌でも出してしまうくらいだったと思う。道はいいし、景色もいいが、逆に言えば何も無い。通勤する人には関係ないかもしれないが、観光客を呼ぶには何か仕掛けが必要。そのためにはスタンプラリー等でつくば市の特産品を景品とするなどしないと誘客は難しいと感じた。

通勤に関しては、せっかく景色がいいので自転車に乗ってもらえばいいと思うが、そのためには、自動車通勤すればこれだけのCO₂が出るが、自転車で走るとこれだけ少なくなるといったことが

見えるアプリ等を開発してもらい、これだけCO2削減に貢献しました、ということが見えるようにすれば自転車利用につながるかもしれないと思った。

観光客を誘致し、きれいな風景を見てもらうには、自走では難しいので、駐車場の位置を示し、ここなら1日中無料で駐車できる、ここからならこういったルートを回れるということを示してあげると喜ばれると思った。こうしたルートは紙ではなくアプリで分かるようにすると良いかと思う。

せっかく「自転車のまちつくば」とうたっているなら、自動車を運転する人に自転車に優しくなってもらいたい。そのために、免許証交付の際、警察官に講話をしてもらうなどすれば浸透するのではと思った。

○委員：関連して、コンビニや飲食店など、サポートステーションに登録していた店舗があると思うが、そういったものは市では発信しているのか。

●事務局：茨城県が駐輪ラックや空気入れを無償で提供して地図上に載せて宣伝していたが、モノを渡してもラックが物置にしまわれてしまうといったことが相次ぎ、県としては実施を取りやめてしまった。つくば市もそれに同調していたため、独自施策としては行っていない。

○委員：自転車に関わって、駐輪できるようなラックのある飲食店や商業施設をマップで紹介するということは可能なのか。

●事務局：つくば市でも「自転車のまちつくばサイクリングガイド」というHPを運営しており、そちらには市内を走る10のルートを掲載している。そのルートの沿線にあるおすすめのカフェなどを載せているが、あまり周知が進んでおらず、HP自体も古いものなので見直しを検討中である。

○委員：R8でもイベントを多くやっているのだから、それに合わせてツアーがあると、周辺地区をよく知ってもらえるという点で良いかと思う。

○委員：前はつくチャリで周ったが、今回はロードバイクで走った。楽し

み方が全然違う。つくチャリでは街中を走ってお店を見つけることくらいが楽しみだったが、今回は走っていても楽しくなるようなルートだった。そういった楽しみ方の違いによってマップを作り分ける必要があるのではと感じた。上郷はスタンプラリーをやっているが、そのルートを自転車で周るのは非常に良いと思うが、PRの仕方が難しい。もし良い案があれば教えてもらいたい。今回走った中では行けなかった観光スポットも周れば、より良いものとなったと思う。

先導していた職員が話していたが、外資系の会社である ESTEE LAUDER の社屋が建設中で、何故この場所を選んだのかということ、景色がよかったからということ聞いた。そういった裏話的なことも掲載できるマップ等があればいいと思った。

○委員：今回初めて推進委員会に出席した。自転車には何年も乗っておらず、途中でリタイアするのでは、と思ったが、つくばは平坦な土地なので、20キロ程度は走ることができ、自転車は良いものだと感じた。如何せん車社会なので、どうやって自転車に目を向けるかということを考えていたが、周知が難しい。先ほどの景観ルートマップにもコンビニや飲食店などの情報が入っていないので、今後精度を上げるとともに、周知の方法について意見をいただきながら考えていきたいと思う。

○委員：今日はほぼつくば市道を使っていたが、1か月前だと除草が終わっておらず、走りにくかったと思う。今回は除草が終わったため、走りやすかった。先ほどあったが、矢羽根が少なく、車道を走ると自動車の怖さを感じたので、自動車の運転手から見ても矢羽根というのは必要なものだった。

川口公園のサイクルスタンドは要望があって設置したてのものがある。

今回の上郷ルート周辺では、渋滞が発生する箇所もあり、信号による制御や右折レーンの延長など、ハード面での対策では限界がある。一番は公共交通機関の利用や自転車の利用を推進することであるので、自転車利用が増えれば環境の改善にもつながると感じた。

○委員：川口公園のサイクルスタンドはどういった人から要望が出たのか。

○委員：小貝川周辺をサイクリングされる方から、休憩のために使いたいで設置してほしいという要望があった。

○委員：今日の感想はほぼ皆さんと同意見である。自転車利活用推進計画について、脱炭素を考慮して検討していただけるのは有難い。脱炭素は環境サイドだけでは実現できないものなので、他部署と連携できるのは重要なことである。

何名かの方からもでていたが、通勤で自転車を使えないかと考えていた。10年ほど前、エコ通勤ということで、研究所や企業に自転車通勤の打診をしに行ったことがある。結果としては、けんもほろろで、自転車通勤で怪我をしたら責任をとれるのかという意見を言われ、安全性の確保が重要であると感じた。実走中、安全性以外に何かしらの支援ができないかと考えていた。走っている最中は思いつかなかったが、帰ってきて、委員の意見を聞き、ポイント制や削減したCO₂の見える化などの意見が出ていたので、様々な意見をいただきながら、自転車と環境について考えたいと思った。

○委員：今回走ったつくば市の西側は、つくば市の都市的な特徴がよく出ていたと思う。つくば市の都市的な特徴でいえば田んぼのゾーンがあり、川が流れている。田んぼはベルト状になっていてあまり広くない。東の方に行けばかなり広い田んぼがあるが、今回のコースでは上郷から東光台にかけて、帯状に開地されていて、そこを横切っていくようなコースである。街が見え、田んぼが見え、若干の高低差があるような景色の変化がみられる。そしてその田んぼの向こうに筑波山が見えるという景観が素晴らしかった。今回は立ち寄りできなかったが、上郷には商店街があり、休むところや飲食店があるという、つくば市の特徴を生かした場所であったと思う。ビューポイントや立ち寄りポイントを組み合わせた新たなマップの作りに活用されると良いと思った。先ほど、こういったマップが周知されにくいという話があったので、つくば市のサイトの可能な限り目立つところに掲載されるなど、情報の置き方が重要だと感じた。

また、先ほどあった車との連動という視点は重要であると思う。普段車に乗っている方が自転車で行くつくば市を巡って体験してもらうことにつながる。駐車場を用意し、レンタサイクルを貸し出す、車に自転車を載せて持ってきてもらうという人を呼び込むと良い。県

の委員会にも出ているが、こういった人の需要は高い。パークアンドライドを考えていくと良い。

ESTEE LAUDER のHP をみると、小貝川が前面に流れ、堤防があり、花壇があり、その奥に社屋が建っているというイメージスケッチがトップに出ている。あの会社がそれを売りにしているということは、社員が自転車でレクリエーションに出っていくことを想定していると思われる。Google の社屋を見てもすぐ近くに自転車ルートがある。そのようなクリエイティブな企業が立地する条件として景観があり、レクリエーションができる場があることが重要であると思われる。それはアメリカの都市計画理論や経済学でも歌われることである。日本でもとうとうそういう時代が来たかと感じさせられ、つくば市はそういったことを目指す行政体であると思うので、施策に取り込んでほしいと思う。今日は委員の方から多くの意見が出てきたので、ソフト施策を考えるうえで有用な会議であったと思う。

○委員：景観マップに出てくる芝畑や田んぼなど、つくばのいいところが残っているというのは非常に重要なことだと感じた。電柱と電線がないことが大事で、途中ではどうしようもないところはあるものの、こうした田園風景を見ることに価値を見つける人も多いのではないかと思った。一か所すごくきれいな風景の中に売地の看板があるなど、残念なところもあったので、そういうことが少なくなるよう、都市計画上で守っていくために、インフラと景観を両立できる方法を考えたいと思った。

実走していて、少人数で走っていると怖いだらうな、と思う箇所があったので、カメラ設置という話も先ほどあったが、自転車に乗る側も自分でカメラをつけるなど、自分を守る手段を講じる必要も感じた。

歩道を走っている時に車道側を走ることが基本ルールだと思うが、必ずしも徹底されていないため、歩行者の負担を減らすうえでも、周知・共有した方が良い。

誰に目を向けるかによってやるべきことが変わると感じた。今回も周辺から R8 に向かうというよりも、中心と R8 の関係性を中心としたものだったと思う。R8 に訪問する立場で言えば、R8 に向かうまでは自転車を使い、集落の中では歩くなど、もう少しゆっくり見たかったと思った。

周辺と中心をつなぐという点では、子どもや家族連れが渋滞を回避して自転車で中心地に向かう道を整備することは重要だが、矢羽根だけだと子ども連れ・子どもだけだと不安なので、通行帯を優先的に作ってはと思う。中央線を消してでも路側帯を広くすれば、車の速度は抑えられるはずである。ただ、理解を得られないまま進めても不満がたまるだけなので、しっかりと理論武装をしたうえで実施することが肝要であると思う。

○委員：電線・電柱という点では、研究学園地区では電線の地中化が進んでいるため全くない。筑波山がはっきり見える。R8に行くとしても増えてしまう。堤防の上でも一部分だけ電線がなく、遠景・中景・近景がはっきり見えた。そういった電線の無い景観をマップ載せるのもよいかもかもしれない。海外では電線などは Visual Pollution、景観的害とされ、不動産価値にも関わるものである。環境、自転車でのビューという点で重要な指摘だと考える。こういった点をソフト事業として同施策に落とし込んでいくのか、シナリオが重要。こうしたことは経済活動や投資にも関わることであり、将来に渡って影響を与えるものである。つくば市としてどうするか検討いただきたい。

・ その他

- 事務局：次回の委員会は11月の自転車イベント参加を以て委員会とすることを予定。詳細は追って連絡する。

以上